

■全世界で学力養成の方法は全く同じである。反対に、考えられない頭にする方法も同じである。→<http://ankm.blog96.fc2.com/>

*このブログをほんの少しだけでも読んでいただければ分かりますが、現代教育が長く求めてきた目標が容易に自然にクリアされている。

【2013-11-15：4年生のレベルがあがってきた】

学校どんぐり2年目。

4年生クラスでは、先頭グループは3MXをやっている。

ぼちぼち、CD飛ばし問題が解ける子が出てきた。

卵タワー問題など、みんなの挑戦レベルが上がってきた。

「絵を描けば、なんとかなるかもしれない。もしかして解けるかも」っていう、わくわくした空気。
この子ら、

去年の今頃は、みの虫小学校問題で、 9×3 がわからなくて、うんうん言ってた

んだけど。

そして、先生の間でも、評価が割れている。

「たった一問なんて」という人と、「どうしてたったの週1コマなの？」という人と。

実際、4年生は問題の難度が上がってきたので、40分の1コマでは苦しくなってきた。

実質35分中、ボードのお手本が10分、問題を選んで貼るのに5分かかるから、残り20分。

ボードのお手本を、月2回に減らすことにする。

【2013-11-08：先生巻き込み成功】

1年B組とC組。先生は二人とも新しく来られた方。

この2クラスは、アンカラムママが昨年度どんぐりをやった幼稚部からの持ち上がり。

だから、初月からどんぐりができる。

そりゃ先生はびっくりするよね。1年のクラスで、いきなりこんなことが可能なのか、って。

B組の先生の姪っ子が、C組にいる関係で、先生は姪っ子のどんぐり帳を見たそう。

うさぎの冷蔵庫問題とか、太陽とかみなり問題、かにさんの差の問題、赤い花白い花問題。

「姪の作品を見せてもらいました。5歳の子供がここまでできるなんて。しかも、集団授業でしょう。姪は、全部説明してくれるんです。完全に理解してるのね」

この子は、うさぎ冷蔵庫問題で、にんじんを1本描きすぎたとき、バツをつけた。

それで、夜になくなった分と混同するかな、と思って見ていたら、

「これは描きすぎたものだから、混同しないでくれ」

とアンカラママに言ってくるので、絶句したものだった。

この先生は、アンカラママの寺子屋に、姪っ子を連れて来たがったのだが、先生がおうちどんぐりをするのをアンカラママが提案。

家は近らしい。週1問で、1MXをやってもらっている。

二人の先生は授業で、どんぐりを取り入れている。

「今日は4を導入したんだけど。こんな話をしてね、みんなに絵を描いてもらったのよ」

「部屋には4本足のテーブルがあります。ペット屋から買ってきた金魚を4匹、水槽に入れました。金魚はそれぞれ泡をひとつずつ出したので、4個の泡ができました」

それで、泡を描くスペースがない場合、どんぐりっ子は躊躇せずに絵を大きく描き直す。

「みんな慣れたもんでね、どんどん描いてくれるのよ。これなら任せてくれっていう顔で。」

間違えることを全然恐がらない

のね。数字の導入が終わって、文章題に入ったら、どんぐり方式でやってもらおうわ」

「たったの1問、とかいう先生もいるけど、本当の教育はこれよね、ってあたしたち話してるのよ」

あはは、やっぱ陰でそういうこと言う先生もいるんだ。

それでも、どんぐり絶賛のスコットランド人の英語の先生が言うには、
ほとんどの先生方が、どんぐりの是非はともかく、「日本人は、よく働くな〜」と言っているらしい。

小学部の職員室の、共同机の4分の1のスペースに、**毎週200冊のどんぐり帳が、山と積み上げられる。**
添削が何時間も続くと、目がかすんでくる。

4歳児クラス：4歳児クラス。

週に15分だけ、どんぐりの見本をボードで見ると、指で数字を確認するのみの授業だ。

その日のどんぐり問題に、「3」が出てきたので、指で「3本」を作ってもらう。

元気よく3本の指を頭の上に見せてくれる子供たち。

「じゃあ、手を後ろに回して、3を作ってくださいーい」円卓を囲んで立っている子供たちの手をチェックしていく。

親指と小指を畳んでいる普通の「3本」を作っている子が約半分。

残り半分は、アンカラママを驚かせるために、スペシャル「3本」を作ってくれる。

右手の親指プラス左手の親指、人差し指、など。

「うわっ変わった3本だね」と言うと、エヘへと笑う。

この子達は、手を後ろに回してから、3本を作るのだ。

目で見て確認してから、手をまわすのではない。

..... **この子たちは、目で見ていないのに、なぜ「3」が作れるのか。**

幼稚部の先生たちは、隅で作業していて、誰も気づく人がいない。

この子たちは、頭の中で、指を見ている。

三角視算表の実践：

どんぐりの授業は週1コマ40分、行事などにもぶつかるので、年間30回ほどしか確保できない。
今年は2年生のクラスで、三角視算表（略して表）導入の計画を立て、すでに1回目をやった。
毎授業頭に、5分程度時間を取り、1ユニットずつやると、1年間でほぼ最後まで行ける。

通常の算数授業で、掛算が始まるのは、2学期からである。

最初に子供たちに、どんぐり帳でなく、通常の算数ノートの裏表紙に、表を貼ってもらう。表を見る回数を増やしてもらうためだ。

この表は、下部の数字（かける数とかけられる数）のみが入ったもので、上は自分で記入できるようになっている。

本当は子供たちが表を書けるといいので、日本ならできるかもしれない。

この表の説明は、一切しない。

掛け算という言葉も使わない。

このことは、担任の先生にも説明して、お願いした。

教室のボードには、宝箱が描いてあり、その上に黄色い画用紙で作ったお宝が4個、貼り付けてある。

子供を一人呼んで、2人目の海賊になってもらう。

「おおっお宝があるぞっ！さあ、山分けだ。オレに1個、オマエに1個、オレに1個、オマエに1個」

「2人の海賊が、2個ずつお宝を取った。全部で4個だ」

ボードに、大きくユニットを描き、左下の部分に海賊2人、右下の部分にお宝2個、上の部分にお宝4個を描く。

「これを数字で表すと」横に、もうひとつユニットを描き、今度は数字を書き入れる。

子供たちのノートに貼ってある表を見てもらい、該当するユニットを探してもらう。

「あった！」「一番上だ」 2×2 の数字は印刷済みなので、上の4の数字のみ描いてもらう。

クラス的人数が少なければ、白紙の表にして、全部の数字を書いてもらうことも可能だと思うが、人数が20人を超えているし、休みの子もいるので、次善の策だ。

最後に目を閉じて、イメージ再現してもらって、終わり。

教室の壁には、左下数字のみ入った大きな表が貼ってある。

数字がひとつだけ入っている理由は、表が埋まったあと、ユニットを探すとき、かける数が同じユニットが集まっていることを今から見ていた

ほうが探しやすいと思うからである。

この表は、授業と同時進行で、ユニットを毎回ひとつずつ埋めて行く。

そのうち、表に規則性があることに気づいて、子供たちのほうから、アンカラママに教えてくれる日が来ると期待している。

しかし、毎回同じパターンでは面白くないので、海賊には木の上の鳥の巣とか、ゴミ箱とか、いろんなところでお宝を発見してもらおう。

（ボードに描くだけ）あと、子供たちのどんぐり作品にも、該当するユニットを、赤ペンで書き入れてあげることにする。

ドリル的な実践は、2学期の様子を見て、担任の先生とも相談して考える。

先生を巻き込む：

高度成長が続くトルコは、今年アンカラで設立された私立小学校が、小規模なのを加えると、15以上。

東部の地方では、学校すら行かせてもらえない子供たちもいるのだが。

うちの学校でも、新学期になり、たくさんの先生が入れ替わった。

ここでは、少しでも高い給料をくれる学校に、簡単に移ってしまうし、保護者に受けが悪い先生は、すぐにクビになったり、非常に流動的。

学校に限らず、民間セクターはどこもそうだ。仕事を続けることはキャリアを積むことだから、職場が変わってもネガティブに取られることはない。

というわけで、1年かけてどんぐりを見てきてもらった先生方も、大半がいなくなってしまった。

また、一人一人と信頼関係を築いていかなければいけない。

昨年の結果から、担任の先生を巻き込むことができたクラスは、高い成果が出たことがわかっているから、これは保護者を巻き込む以上に重要。

昨年から残っている小学部の先生は、3人しかいない。新しい先生が、6人。また昨年の繰り返し、どんぐり作品を貼らせてくれ、と言えば空気がないと拒否されたり、低学年のクラスが崩壊状態でも「あなたも先生なら自分で何とかすべき」「週にひとコマくらいどうでもいい」と無関心だったり・・・昨年はこれで、自分に持病が出たりしたことから、今年はできるだけ腹を立てないようにしている。

さて、昨年から残っている先生のうち、1人は毎回授業に参加してくれる。残り2人は時々クラスにきて、生徒に気合を入れて出て行くだけだった。そのうちの一人である男の先生、今年は4年生を受け持っておられるのだが、アンカラママの、今年度2回目の授業にやってきて、後ろの席に座って、Nちゃんの手から、返却された頭健康診断の紙を見ていた。2M55などの問題が、鮮やかに解かれている。

1問目を見てみると、0m xの「ももんがのマント」問題。

Nちゃんが、テストのとき、簡単すぎて笑いを漏らした問題だ。

「うむ・・・」なるほど、こうやって描けば簡単だ。これなら、クラスで低学力の男子2人組も解けるのではないか。

そう思った先生、男子の横の席にやってきた。

その子のテスト用紙は白紙である。

「おまえ、これをやれ。ももんが、ももんがの絵を描くんじゃ。」いきなりの先生のアクションに、驚いた男子「??？」

「何でもいい、ももんがだ、空飛ぶリスだ」目を白黒させた男子、○と△で、ももんがらしきものを描く。

「みぎに1かい ひだりに2かい まんとをひらひらさせます、だ。何をやっとり、描けい、描かんかつ！」 顔が赤くなる先生。

「うぬっ何でこんな簡単なことができんのじゃあつ」クラス中が、ドン引きして見ている。

アンカラムマの、「ゆっくり想像してごらん。ももんがつて知ってる？空飛ぶリスさんだよ。木から木に飛び移るの・・・森の中でね・・・さあ、描いてみようか・・・」催眠術のような誘い文句とあまりに違う。

「あの、先生、怒ったらだめです、怒らないでください」この子に描かせるには、ももんがになってもらって、右と左の手を動かしてもらい、実際の動きを体感させる。

今回はテストだったので、そういう個人フォローはしなかった。

この先生を巻き込むには、どうしたらいいのだろう。

それには、アンカラムマが、この先生の役立つことをする、つまり、ギブアンドテイクの関係を作る。

どんぐりでギブをしているつもりでも、相手が有効性を実感していない場合、何の意味も持たない。

去年は、空き時間に工作を手伝ったり、先生が保護者と話している間、クラスで絵描き歌を教えたり、できるかぎりのことをしたつもりだ。

しかし、12人の先生にギブをするのは時間的に無理。どうしても優先順位をつけなければならない。

必然的に、4年と、新設された3年B組ということになる。そこで、去年もときどきやっていた放課後の個人指導を、優先的にこの2クラスにあててことにした。

新学期始動：

9月中旬。トルコの新学年が始まった。今年は、アンカラムマの生徒は総勢192名。

「この1年ですごく進歩しました」新1年生のお母さん、

「今年は1年生の授業はしてくださるんですか、ああ良かった！」新1年生のお母さん、

「今までお話したことがなかったのだけど、1度是非お礼を言いたくて。息子と買い物に行くたびに、驚かされてばかりです。いつの間に、こんな計算ができるようになったのかしら」新2年生のお母さん、

「あなたがいらっしゃるから、今年もこの学校に通わせることにしました」新4年生のお母さん、

「休み明けに、真っ先に、あなたが今年もうちの学校に来るのか、校長先生に尋ねたわ」2年生の担任の先生、

・・・去年はとにかく試行錯誤の毎日だったけど、今年は去年の反省も踏まえて、さらに効果的にやる予定。

さて、新3年生は、昨年度は1クラスだったのが、今年は人数が増えたので1クラス新設された。

そこで、

学年はじめの、頭の健康診断で、1年間どんぐりをしたクラスと、していないクラスで、比較することができた。

1年間どんぐりをたといっても、このクラスは女子がバレエの課外活動とぶつかったりして、あまり満足にできなかった例のクラス。問題は、0mx15のしげっちなふだっち 0mx42 めがねをかけたメダカ 0mx84 男のありさんと女のありさん 1mx93 ありんこ小学校の砂糖争奪戦
.....

<1MX42>テントウムシしょうがつこの1ねんせい20にんがおとこのこ1れつとおんなのこ1れつにならんでいます。おとこのこと おんなのこが てを つないでみると おとこのこが 8にんあまってしまいました。では、おとこのこは なんにん いるのでしょうか。

.....
<1MX84>向日葵組は、赤青黄の3つの班に分かれていて、皆で42人います。赤は青よりも6人多くて、青は黄よりも3人少ないです。今、班毎に1列に並んでももらいました。では、班毎に前から8番目と後ろから6番目の間の数を出して、その数を足すと幾つになるでしょう。

.....
<1MX93>アリンコ小学校の運動会で、恒例のお砂糖争奪戦競争が始まりました。赤組と白組で競争したところ、獲得量が赤組は白組の2倍で、赤白の合計は600gでした。では、白組は何g獲得したのでしょうか。
.....

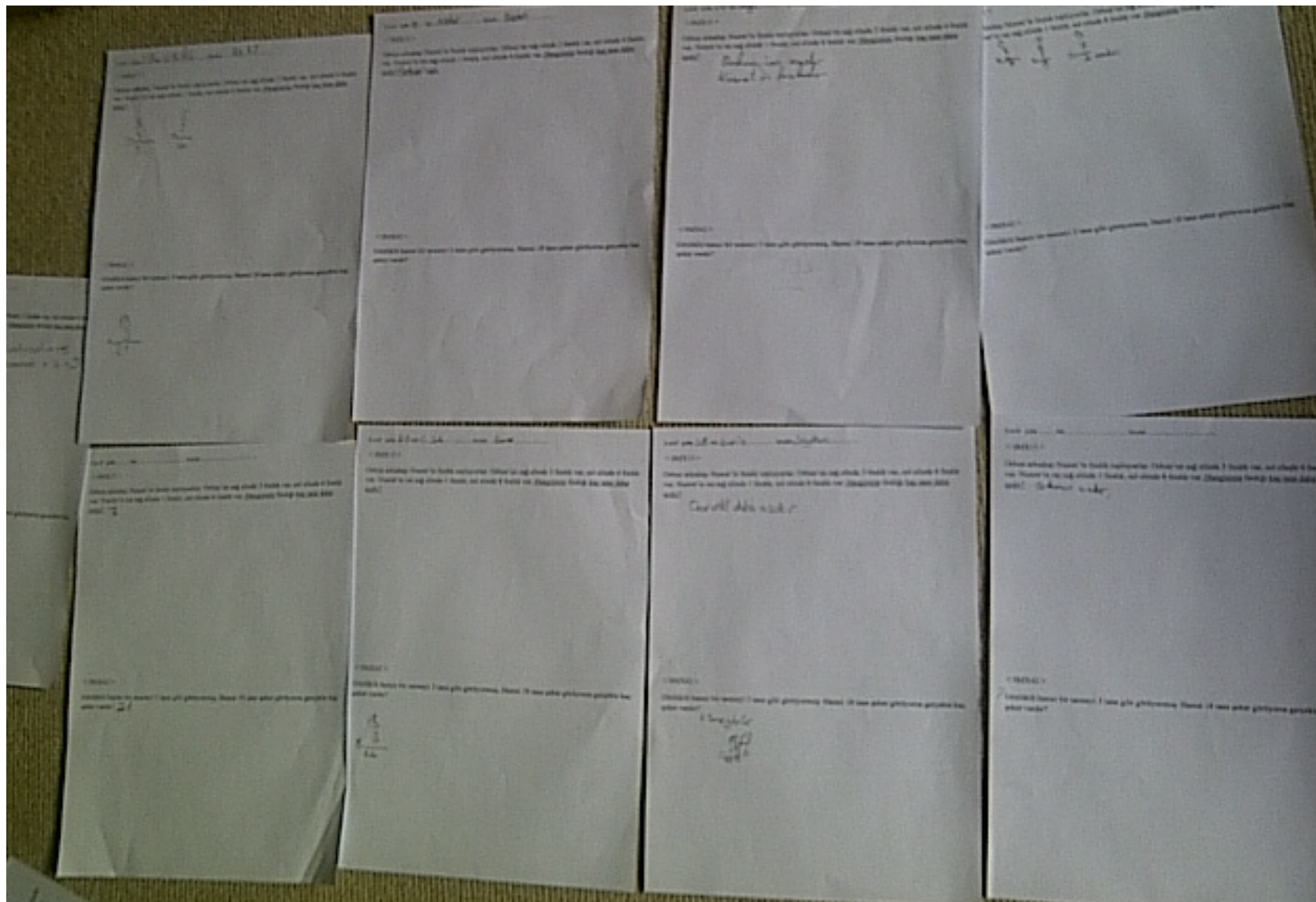
Handwritten notes and drawings on the left edge of the page, including a small drawing of a person's head and some scribbles.

Handwritten notes and drawings on the left page, including a drawing of a person's head and some scribbles.

Handwritten notes and drawings on the middle page, including a drawing of a person's head and some scribbles.

Handwritten notes and drawings on the right page, including a drawing of a person's head and some scribbles.

Handwritten notes and drawings on the right edge of the page, including a small drawing of a person's head and some scribbles.



*上がどんぐり経験のA組。わからなくても、絵を描いて、考えた形跡であふれている。35分間、時間いっぱいまであきらめない生徒がほとんど。

*下は、未経験のB組で、0mx15を不足なく回答できた生徒はなし。一読して、手付かずであきらめる生徒がほとんど。考える方法を教えられていないのだ。

この結果を、A組の担任の先生に見せた。自分の指導に絶対の自信を持っているので、これも自分の指導の成果だ！という御仁なのであるが・

・去年は、最初はどんぐりをバカにしていたのだが、最近は「アプローチの仕方は違うが、自分と同様生徒を愛している」のがわかり、だんだんアンカラムマを認めるように。（先生たちの中には、教室でDVD見せて、自分は職員室でお茶を飲んでる人までいる。ここ、先進国じゃないから）よっしゃ！と意気投合する二人なのであった。